

令和7年9月18日

学校法人秋草学園
秋草学園福祉教育専門学校
校長 秋草 誠 様

秋草学園福祉教育専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 内田 徹

令和6年度 学校関係者評価報告書

秋草学園福祉教育専門学校 学校関係者評価委員会は「令和6年度秋草学園福祉教育専門学校 自己点検・自己評価報告書」に基づき、学校関係者による評価を実施しましたので報告いたします。

なお、学校関係者評価委員会は業界団体・関係施設の役職員、自治体職員、高等学校教員、卒業生、地域住民の代表等6名をもって構成しています。令和6年度は2回の会議を開催し、自己点検・自己評価報告書に基づいて、学校運営、教育活動等について下記のとおり評価を行いました。

記

1 総合評価

当校は地域に根付いた福祉教育専門学校として多数の介護人材を育成し、地域社会からの負託に応える教育をしている。令和6年度の国家試験合格率は前年同様に96%を誇っており、地域の介護人材育成の中核機関となっていることに変わりはない。特に日本国籍者の合格率は100%であり、教育の成果として高く評価できる。しかしながら、今後留学生の増加が予想されることから、介護福祉の専門知識・技能の教育とともに日本語能力のさらなる向上と国家試験対策が必要となる。

学生募集に関して入学者は昨年比2名減だった。「財務」「法令遵守」「社会貢献・地域貢献」等の項目に関しては、財務改善を除き前年と同様に高い評価となっており、地域の介護福祉士育成の役割を十分果たしている。

今後は、自己点検・自己評価報告書で提示された各種課題の解決に適宜取り組むとともに、留学生の受け入れの強化、入学者数の増加と積極的な学校の改革・運営が求められる。

2 評価項目の達成状況及び改善策等

(1) 教育理念・目標

<達成状況及び課題>

- ・本学園の理念と教育活動が目的を持った関連づけができていない。
- ・介護人材が減少し、不足しているにもかかわらず、養成校入学者も減少している。保護者や学生に介護イコール老人ホームという考えが定着している。多様な活躍の場(障害関係、企業、教育など)が理解されていない。

<今後の具体的な取り組み等>

- ・講師会議等の場で、本校の理念・特色などを周知し、それぞれの授業の中で学生に浸透させていく。

・ガイダンスなどで介護福祉士の多様な活躍の場を話し、理解を深めてもらう。在学生に対しても教育を行っていく。

(2) 学校運営について

<達成状況及び課題>

・教育活動において計画的な運営ができておらず、非効率的になっている

<今後の具体的な取り組み等>

・現状導入しているシステム活用(NI コラボ)とPDCA サイクル(5ヵ年計画)の活用を行う。

(3) 教育活動

<達成状況及び課題>

・介護分野関係施設と連携はしているが、実習も含めて体系的な教育活動が実施できていない。

<今後の具体的な取り組み等>

・安定的な教員の確保が必要である。学福、官学連携を活用しながらカリキュラム体系の構築をしていく。

(4) 学修成果

<達成状況及び課題>

・介護という間口が広いため、とりあえず介護と選択をする学生が多くおり、学び始めてから自分の思っていたものと違うと進路変更をする学生がいる。

<今後の具体的な取り組み等>

・オープンキャンパス、学校見学会の際に介護の内容を明確に伝える必要がある。しかしながら、入学時には介護について理解していなかったが、入学してから介護が自分にあっていると感じる学生もいる。

(5) 学生支援

<達成状況及び課題>

・経済面で厳しい学生が多い。また、精神的に不安定な学生も増えている。このような学生に対して学校として支援していく必要がある。

<今後の具体的な取り組み等>

・障害についての情報を職員も理解する必要がある。学生の個別性を理解するため情報共有する場を設ける。教職員は、社会資源、こころの病気などについての研修会などに参加し、実践に生かす。

(6) 教育環境

<達成状況及び課題>

・介護実習室、入浴実習室、家政実習室の備品が劣化している。

・開校以来整備されていない部分もあり、設備投資が必要ではあるが、現状財政状況が悪く見通しがたない部分が多い。

<今後の具体的な取り組み等>

- ・備品購入の検討をする。
- ・福祉用具の点検と修理を行う。
- ・単年度である程度の予算を確保し、故障した部分から修理を実施する。中長期計画に計画を入れる。

(7) 学生の受け入れ募集

<達成状況及び課題>

- ・近年日本人学生の確保が難しくなっている。学校の運営上、定員の半数は日本人を確保したい。

<今後の具体的な取り組み等>

- ・重点校への訪問回数を増やす。また、具体的な形の特色を検討していく。
- ・オープンキャンパスやHP・SNS、高校訪問、ガイダンス参加等で広報を行っていく。

(8) 財務

<達成状況及び課題>

- ・学生が定員に達していない状況が続いている。定員に達することが必要である。
- ・教職員へ5ヵ年計画の周知を行う。
- ・令和7年度から1名につき2年間で20万円の値上げを実施した。

<今後の具体的な取り組み等>

- ・日本人の介護希望者が減少していることから、入学希望者も減少している。このことから、留学生を受け入れる。しかし、留学生の人数が増加すると、新たな課題も見えてくる。そのようなことから、学則などの整備も必要だと考える。
- ・定期的な会議を実施し、進捗を報告する。

(9) 法令遵守

令和6年度は教員数が基準より1名不足していたため、教員の確保に向けた採用活動を進めた。

(10) 社会貢献・地域貢献

地域貢献活動の参加については、学校として力を入れた。その成果として、生徒の自己成長、社会の一員としての責任感が身についた。また実践者としての実践力も身についた。

令和6年度は、1人3.6回のボランティアへ参加している。

学校関係者評価委員会委員(五十音順)

石塚 清和	サービス付高齢者住宅レジデンシャル小手指 Sakura 施設長
内田 徹	学福連携プロジェクト幹事長
大館 寿貴	所沢市役所福祉部 次長
川口 竜也	社会福祉法人所沢市社会福祉協議会 企画総務課 在宅生活支援室長兼介護保険認定調査事務所長
武村 紗織	埼玉県立狭山緑陽高等学校主幹教諭
山足 巖	東所沢五丁目自治会 会長